

## 通常砂防事業事前評価調書

路線・河川等名	桃ヶ谷川	事業名	通常砂防事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	京都府宮津市宮村 地内		
事業概	目的	京都府宮津市に位置し、保全対象として人家32戸及び宮村公民館(一時避難所)、市道惣宮村線(3種3級)、市道宮村八幡線(避難路)、市道宮村山手線(避難路)、鉄道(京都丹後鉄道)を含む溪流である。平成25年台風18号で溪流が浸食し土石流発生が懸念されるため、早急に対応が必要である。			
	内容	砂防堰堤：N = 1基 事業費：4.2億円			
	上位計画等	明日の京都 社会資本総合整備計画(防災・安全交付金)			
	スケジュール	着手年度：平成29年度 完成目標：平成33年度			
事業の社会経済情勢及び地元情勢等	○当該箇所の谷出口には市街地が広がっており、土砂災害警戒区域内に人家32戸、宮村公民館(一時避難所)、市道惣宮村線(3種3級)、市道宮村八幡線(避難路)、市道宮村山手線(避難路)、鉄道(京都丹後鉄道)が存在し、土石流が発生した場合、地域住民に与える影響は大きい。				
事業の効果及び費用対便益等	○土石流から避難所や人家など人命を保護し、市道、鉄道を保全する事業であり、投資効果は大きい。(B/C = 8.4)				
事業のコスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	○現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト縮減を図る。 ○砂防えん堤を効率的に配置し、施設の規模を抑制することで、地形の改変を最小限とし、自然環境への負荷低減に努める。				
総合評価	本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から、新規事業着手の必要がある。				

おおてがわ ももがたにがわ  
京都府 大手川水系 桃ヶ谷川 通常砂防事業 (H29新規)  
きょうとふ みやづし みやむら  
京都府 宮津市 宮村

◎事業目的

桃ヶ谷川は京都府宮津市に位置し、保全対象として人家32戸及び宮村公民館(一時避難所)、市道惣宮村線(3種3級)、市道宮村八幡線(避難路)、市道宮村山手線(避難路)、鉄道(京都丹後鉄道)を含む溪流である。平成25年台風18号で溪流が浸食し土石流発生が懸念されるため、早急に対応が必要である。

◎箇所概要 ○事業年度:H29~H33

- 全体事業費:420(百万円) H29:C=20(百万円)
- 保全対象:人家39戸、宮村公民館、市道、鉄道(京都丹後鉄道)
- 事業内容:砂防堰堤1基
- H29事業内容:測量、土質調査、詳細設計



『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成29年5月10日		
		作成部署	建設交通部 砂防課		
事業名	桃ヶ谷川 通常砂防事業		地区名	宮津市宮村 地内	
概算事業費	4.2億円		事業期間	平成29年度～平成33年度	
事業概要	砂防堰堤 N=1基				
目指すべき環境像	事業箇所周辺は住宅地となっており、残された自然環境や景観の保全が重要であり、事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。また、土砂災害発生を防止する事業であり、地域住民の安心。安全を確保するとともに、動植物の生育環境と長期的な景観の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。				
関連する					
評価項目		施工地の環境特性と目標		環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点		選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。	砂防えん堤工及び溪流保全工を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の大規模な土砂移動を抑止し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。	
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	○			4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家や要配慮者利用施設・小学校、府道・町道が位置しているため、工事期間中の土壌流下や、工事車両による騒音・振動・粉塵を抑制する必要がある。 また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低震動機械を使用することを原則とする。 粉じんが発生する工程では、散水や防塵シートを使用する等、日常生活に支障を及ぼさないよう、配慮する。 また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				3
	大気環境				3
	土壌・地盤環境				3
	騒音・振動	○			
	廃棄物・リサイクル	○			
	化学物質・粉じん等	○			
	電磁波・電波・日照				
	その他				
地域個性・文化環境	景観	○	当該溪流周辺は人家が点在する集落であるが、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。	材料の選定においては、地域の自然景観との調和を図るよう努める。 地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			4
	その他				
外部評価					